

幼 児 の 教 育

昭 和 十 年 十 一 月

爐 邊 味

冬の日が近づく。外の寒さや荒涼さにつけても、しのばれるのは田舎家なごの爐邊の味である。たゞ温かいふばかりではない。そこには、意識されない親しさがあり、なごやかさがあり、ふくよかさがある。誰れを中心にいふこもなきまごる、何んの用件さいふこもない話しあひ、それでゐて、こつくりした濃かさが、浮きもせず沈みもしないほんじうの中味をなしてゐる。

ごこかまだわざとらしさの多い幼稚園、なんきなくざわ／＼あはたゞしい幼稚園、意志と意識と、感情さへ屢々きしり氣味な幼稚園。仕事場としての幼稚園、教場としての幼稚園、保育事業としての幼稚園。なぜ、もつと、子ごも達と大人ごが一つ氣もちに溶けこんでゐる、あのおつとりした田舎家なごの爐邊に似た味の出ないごこか。